

BEST AVAILABLE COPY

SELF-ADHESIVE PAPER

Patent number: JP55129475
Publication date: 1980-10-07
Inventor: HARADA KATSUMI; others: 03
Applicant: FUJI XEROX CO LTD; others: 01
Classification:
- International: C09J7/02
- european:
Application number: JP19790036849 19790330
Priority number(s):

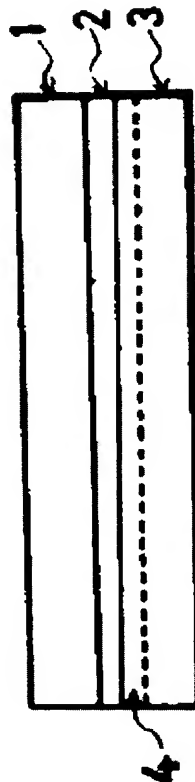
Abstract of JP55129475

PURPOSE: To prepare a low-cost self-adhesive paper having excellent copying characteristics, by laminating a covering paper having an adhesive layer and a releasing paper opposing the adhesive paper to the releasing face of the releasing paper, wherein said covering paper and/or said releasing paper are single-glazed sheets and said adhesive layer or the releasing treatment is applied to the glazed face.

CONSTITUTION: A self-adhesive paper composed of a covering paper having a pressure-sensitive adhesive layer 2 (the pressure sensitive adhesive is, e.g. a water-based natural rubber latex) and a releasing paper 3 laminated to the covering paper 1 facing the releasing face (e.g. coated with a silicone resin) to the adhesive layer 2, wherein at least one of the substrates of said covering paper and said releasing paper is made of a single-glazed paper (e.g. white rolled paper, S-rolled paper, etc.) manufactured by a paper-making machine having a Yankee drier, and the adhesive layer of the releasing layer is applied to the glazed surface of the single-glazed paper.

EFFECT: The self-adhesive paper can be stably transferred in a copying machine without curling, even under a high or low humidity atmosphere.

USE: Electrostatic copying, magnetic copying, etc.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55-129475

⑤ Int. Cl. ³	識別記号	庁内整理番号	④ 公開
C 09 J 7/02		6958-4 J	昭和55年(1980)10月7日
// G 03 G 7/00	1 0 1	6906-2H	発明の数 1
19/00		6715-2H	審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 粘着紙

東京都中央区日本橋三丁目3番
9号株式会社倉本産業内

⑮ 特 願 昭54-36849

⑯ 発 明 者 松井明照

⑮ 出 願 昭54(1979)3月30日

東京都中央区日本橋三丁目3番
9号株式会社倉本産業内

⑯ 発 明 者 原田勝巳

海老名市本郷2274番地富士ゼロ
ックス株式会社海老名工場内

⑰ 出 願 人 富士ゼロックス株式会社
東京都港区赤坂三丁目3番5号

⑯ 発 明 者 大橋耐二

海老名市本郷2274番地富士ゼロ
ックス株式会社海老名工場内

⑰ 出 願 人 株式会社倉本産業
東京都中央区日本橋三丁目3番
9号

⑯ 発 明 者 前島信夫

⑱ 代 理 人 弁理士 佐々木清隆 外2名

明 細 書

1. [発明の名称]

粘 着 紙

2. [特許請求の範囲]

粘着層を有する上紙と離型面を有する剥離紙が、
粘着層と離型面とを接して積層された構造を持つ
粘着紙において、該上紙及び該剥離紙の基材のう
ち少なくとも一方に、片断用紙を使用し、該片断
用紙の断付面に粘着層又は離型面を形成したこと
を特徴とする粘着紙。

3. [発明の詳細な説明]

本発明は、静電複写、磁気複写等及び一般事務
用等に於いて使用される粘着紙に関するものであ
る。

第1図に示すような上紙、感圧性粘着剤層およ
び離型面を有する剥離紙からなる粘着紙には、従
来

(1) 上紙に上質紙を用い、剥離紙基材にグラシン
紙を用いたもの、

(2) 上紙および剥離紙基材ともに上質紙を用いた

(1)

もの、

等がある。

しかし、前者は例えば静電複写機にかけたとき
の複写適性特に複写機内で送行性の点で、また後
者はアンカーコート塗布量、シリコン塗布量が
増加するためコストの点で問題があり何れも実用
的でなかった。

本発明の目的は静電複写、磁気複写等に対する
複写適性に優れた低コストの粘着紙を提供するこ
とである。

更に詳しく言えば本発明の目的は複写適性特に
走行適性があり粘着紙として上面裏面共に適度の
表面粗さを有し、且つ上紙と剥離紙との間の物理
特性に差がないか又は差が小さく、高湿度環境下
で使用又は保管した場合でも両者の紙の伸び率の
差が粘着紙のカール現象を生じない程度に小さく、
そして低湿度環境下で使用又は保管した場合でも
両者の紙の収縮率の差が粘着紙のカール現象を生
じない程度に小さいものを提供することである。

更に本発明の目的は低コストの粘着紙として粘

(2)

特開昭55-129475(2)

着剤の塗工又は剥離紙基材への離型剤の塗布が均一であり、かつその塗布量が少量であるものを提供することである。

上記の目的を達成しこれらの諸特性を有する本発明の粘着紙は、上紙および剥離紙基材のうち少なくとも一方に、ヤンキー式ドライヤーを有する抄紙機により抄紙された片断用紙を用い、該片断用紙の断付面に感圧性粘着剤層又は離型面を形成することによつて得られる。

本発明において片断用紙を抄紙するヤンキー抄紙機とは、乾燥部に1本の大径ドライヤーを持つ抄紙機で、湿紙匹はヤンキードライヤー面にプレッシャーロールで押し付けられて、強い片面光沢の得られるものである。

本発明に使用される片断用紙は、純白ロール紙（晒クラフトパルプを主としたロール紙）、Sロール紙（未晒又は半晒の化学パルプを主としたロール紙）、Gロール紙（化学パルプ30%以上、残余は碎木パルプを混入したロール紙）、片断晒クラフト紙、純白包装紙等ヤンキー抄紙機（長網、

(3)

短網、円網の各式）で抄紙されたものであればよい。ヤンキー式ドライヤーをもつて抄紙された片断用紙は長繊維でカールしにくい特徴がある。

本発明で使用する感圧性粘着剤は、一般に使用されているものでよく、水性型の天然ゴムラテックス、合成ゴムラテックス、アクリル樹脂エマルジョン；溶剤型の天然ゴム、合成ゴム、ポリイソブチレン、ポリビニルアルキルエーテル、アクリルエステル共重合体等が使用できる。

剥離紙に使用する離型剤は一般に使用されているものでよく例えばシリコーン系樹脂等が使用できる。

本発明において、剥離紙基材に上記片断用紙を使用した粘着紙及び上紙と剥離紙基材の両方に上記片断用紙を使用した粘着紙は特に優れており、次のような利点を有する。

高温度下で剥離紙が上紙より大きな伸びを示し、上紙側に大きくカールし、低温度で剥離紙が上紙より大きな収縮を示し、剥離紙側に大きくカールするという、グラシン剥離紙を用いた従来粘着紙

(4)

の欠点を有さない。そのため使用時又は保管環境の悪い状況、つまり高湿度若しくは低湿度下におかれた複写機においても本発明の粘着紙は走行性が安定している。

少なくとも剥離紙基材に上記片断用紙を使用した本発明の粘着紙は上紙、剥離紙基材ともに実質的に同材料及び同材質になるために環境変化に対するカール変動が小さくなる。又、剥離紙基材に片断用紙を用い、その片断用紙の断付面にシリコーン系樹脂を塗工するため、僅く少量のアンカークート処理をすることにより、シリコーン系樹脂の表面浸透は防げ、製造コストも安価である。更に従来の粘着紙にあるようなグラシン紙を剥離紙基材としたものと違い、剥離紙基材の表面が一般上質紙と同程度またはそれより低い平滑性を有しているため複写機に使用する際、給紙時の滑りがなく安定した走行適性を持たせることができる。

粘着紙の上紙に上記片断用紙を使用した場合には、感圧性粘着層の均一塗布が容易になり、塗布量が低下しかつ塗布膜厚の制御がし易く、粘着紙

(5)

全体の厚さも均一化出来る。

以下に本発明の実施例を示す。

実施例 1

上紙には純白ロール紙「王子製紙製OK純白」坪量 45g/m^2 を使用し、剥離紙には上紙と同様にOK純白坪量 45g/m^2 の断付面を持つたものを用い、この断付面に耐摩擦性賦与剤をアンカークーティングし、この上にシリコーン系樹脂（信越シリコーン（株）、KS-705F）を塗工し、粘着剤としてはアクリル系感圧性粘着剤（大日本インキ（株）、DICプラスTPSX-102-D）を使用し、剥離紙に粘着剤を乾燥後 20g/m^2 になるように塗工して上紙と貼合せて粘着紙を得た。こうして得た粘着紙の環境変化に対するカール変動は小さく、静電複写機でコピーテストを実施した結果、走行性が良好であつた。その結果を表-Iに示す。

実施例 2

上紙には上質紙「王子製紙製「サンフラワー」坪量 52.3g/m^2 」を使用し、剥離紙には片断晒ク

(6)

ラフト紙丸住製紙製“スターバックA”坪量40
 g/m^2 を用い、その飽付面に耐腐蝕性賦与剤をア
 ンカーコーティングし、その上に実施例1と同様
 にしてシリコン系樹脂を塗工し、粘着剤として
 アクリル系感圧性粘着剤を使用して粘着紙を得た。
 こうして得た粘着紙の環境変化に対するカール変
 動はかなり小さく、静電複写機でコピーテストを
 実施した結果、走行性が良好であった。

その結果を表-1に示す。

比較例 1

上紙には上質紙山陽国策パルプ製“銀澤”坪量
 $52.3 g/m^2$ を使用し、剝離紙にはグラシン紙十
 条製紙製“グラシン厚口”坪量64 g/m^2 を用い、
 これに耐腐蝕性賦与剤をアンカーコーティングし、
 その上に実施例1と同様にしてシリコン系樹脂
 を塗工し、粘着剤としてアクリル系感圧性粘着剤
 を使用して粘着紙を得た。こうして得た粘着紙を
 静電複写機でコピーテストした結果を表-1に示
 す。

比較例 2

(7)

表-1の結果からわかるように、本発明による
 粘着紙(実施例1および2)が静電複写機におけ
 るカール性、定着性、走行性において、また保管
 時のカール性において従来のもの(比較例1およ
 び2)よりもはるかに優れていることが明らかで
 ある。

4. [図面の簡単な説明]

第1図は粘着紙の構造を示す断面図である。
 図中符号：1…上紙、2…感圧性粘着剤層、
 3…剝離紙、4…離型層。

代理人 井堀士(8107)佐々木 清 隆
 (ほか2名)

(9)

特開昭55-129475(3)

上紙および剝離紙基材にフォーム用紙(日本パ
 ルプ製)坪量52.3 g/m^2 を使用し、剝離紙基材
 に耐腐蝕性賦与剤をアンカーコーティングし、そ
 の上に実施例1と同様にしてシリコン系樹脂を
 塗工し、粘着剤としてはSBR系感圧性粘着剤を
 使用して粘着紙を得た。

こうして得た粘着紙を静電複写機でコピーテス
 トした結果を表-1に示す。

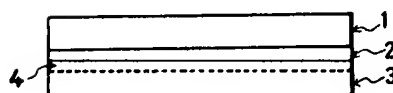
表-1

実施例	20℃65%RHの 環境テスト		20℃85%RHの 環境テスト		走行性
	カール性	定着性	カール性	定着性	
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○
比較例1	×	○	×	△	×
比較例2	△	○	△	○	△

注1：表中に示す記号は以下の通りの意味を表わ
 す。 ○良好、△若干劣る、×不良

注2：比較例は現在市販されている粘着紙と同等
 の例。

(8)



第 1 図